

令和5年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和5年8月8日
岩手県病害虫防除所

トマトキバガの初確認について

1 対象病害虫

- (1) 害虫名 : トマトキバガ
- (2) 学名 : *Tuta absoluta* (Meyrick)

2 発生の経緯

令和5年7月10日、県中部の2か所のトマト栽培圃場周辺に設置した侵入調査用のトマトキバガのフェロモントラップにおいて蛾の成虫(写真1)が誘殺された。これを横浜植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のトマトキバガであることが7月14日に判明した。現在のところ、本種による農作物の被害は確認されていない。

国内では令和3年10月に熊本県で初めて確認された。それ以降、青森県や秋田県、北海道等、計21道県でトラップによる誘殺が確認されている。なお、国内では、農作物の被害は確認されていない。

3 形態及び生態

成虫(写真2)は、翅を閉じた静止時で体長5~7mm(前翅長約5mm、開張約10mm)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一樣に淡黒褐色である。

幼虫(写真3)は、終齢(4齢)で約8mm。体色は淡緑色~淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に黒色横帯がある。

1年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10~12世代発生する地域もある。卵~成虫になるまでの期間は24~38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。

成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、メスは一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

4 主な寄主植物と被害の特徴

トマト、ばれいしょ、ピーマン、なす等のナス科植物が主要な寄主植物である。

トマトでは、茎葉の内側に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白~褐変した外観となる(写真4)。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する(写真5)。

5 防除対策

- (1) 圃場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。
- (2) トマトキバガの発生が疑われた場合には、速やかに病害虫防除所に連絡する。
- (3) 発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実は圃場に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニル袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。
- (4) トマト及びミニトマトのトマトキバガに対する登録農薬は表1、2のとおり(令和5年8月1日現在)。
なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う(農林水産省「農薬登録情報提供システム」<https://pesticide.maff.go.jp/>)。



写真1 県内で誘殺されたトマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ成虫



写真3 トマトキバガ終齢幼虫



写真4 トマト葉の食痕



写真5 トマト果実の食痕

写真1は岩手県病害虫防除所原図

写真2～5は農林水産省植物防疫所原図

表1 トマトキバガに登録のある薬剤（トマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法 名称	使用時期	本剤の 使用回数	希釈倍数・ 使用量	成分の総 使用回数
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍	
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内
アグリメック	アバメクチン乳剤	6	散布	収穫前日まで	3回以内	500～1000倍	3回以内
エスマルクDF	BT水和剤	11A	散布	発生初期(但し、 収穫前日まで)	-	1000倍	-
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内
トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
ブリロッソ粒剤	シアントラニプロール 粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定 植時	1回	2g/株	※1
ブリロッソ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定 植時		2g/株	
バリマークSC	シアントラニプロール 水和剤	28	灌注	育苗期後半～定 植当日		400株あたり 25mL	
ベネビアOD	テトラニプロール水和 剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	※2
ヨーバルフロアブル		28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	
グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

表2 トマトキバガに登録のある薬剤（ミニトマト）

商品名	農薬の種類	IRACコード	使用方法 名称	使用時期	本剤の 使用回数	希釈倍数・ 使用量	成分の総 使用回数
ディアナSC	スピネトラム水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	2500～5000倍	2回以内
ラディアントSC		5	散布	収穫前日まで		2500～5000倍	
ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	5	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内
アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6	散布	収穫前日まで	5回以内	2000倍	5回以内
エスマルクDF	BT水和剤	11A	散布	発生初期(但し、 収穫前日まで)	-	1000倍	-
コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	3回以内
アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B	散布	収穫前日まで	3回以内	1000倍	3回以内
フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
ブリロッソ粒剤	シアントラニプロール 粒剤	28	株元散布	育苗期後半～定 植時	1回	2g/株	※1
ブリロッソ粒剤オメガ		28	株元散布	育苗期後半～定 植時		2g/株	
バリマークSC	シアントラニプロール 水和剤	28	灌注	育苗期後半～定 植当日		400株あたり 25mL	
ベネビアOD	テトラニプロール水和 剤	28	散布	収穫前日まで	3回以内	2000倍	※2
ヨーバルフロアブル		28	散布	収穫前日まで	3回以内	2500倍	
グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	30	散布	収穫前日まで	2回以内	2000倍	2回以内
プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	UN	散布	収穫前日まで	2回以内	1000倍	2回以内

※1 4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)

※2 4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回以内)

【利用上の注意】

本資料は、令和5年8月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・ 農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・ 農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

